

快報

アドバイザーの鳥越皓之さんが「瑞宝中綬章」を受章



「瑞宝中綬章」を受章した鳥越皓之さん

2025年4月29日、「令和7年春の叙勲」受章者が発表され、当センターのアドバイザーである鳥越皓之さんが「瑞宝中綬章」を受章されました。瑞宝中綬章は公務などに長年にわたり従事し、成績を挙げた方に授与されるものです。

鳥越さんは、関西学院大学社会学部教授、筑波大学大学院人文社会科学部教授、早稲田大学人間科学学術院教授、大手前大学学長などを歴任。大学で環境社会学と環境民俗学を講じる一方、行政や住民の人たちと環境やコミュニティ、まちづくり

などに関する方策を数多く協議しました。日本社会学会会長や日本村落研究学会会長などの要職も務めておられました。

1982年に上梓した『トカラ列島社会の研究』を皮切りに、『家と村の社会学』『柳田民俗学のフィロソフィー』『「サザエさん」的コミュニティの法則』『琉球国の滅亡とハワイ移民』など多くの著書、編著書があります。当センターのスタッフたちは、鳥越さんの『水と日本人』を繰り返し読んでいます。

鳥越先生、おめでとうございます。

再訪

78号「街なかの喫茶店」取材先を再訪



2025年1月に発行した『水の文化』78号の特集「街なかの喫茶店」。読者の皆さんはもう読んでくださいましたか？ ご覧いただければ、さまざまな喫茶店の成り立ち、そしてコーヒーや経営に秘めた店主の思いなどをわかっていただけたと思います。

今号は、大阪と京都、そして能登半島を取材で訪問する機会を得ました。そこで、前号の取材や撮影にご協力いただいた御礼をお伝えしたく、またおいしいコーヒーも飲みたくて、数店を再訪しました。

取材中はなかなか時間が読めないため、アポイント

はとらないままでの訪問でしたが、皆さん変わらずお元気でした。

『水の文化』を来店客の目にとりやすい位置に置いてくださっている喫茶店もあり、センターのスタッフとしてはとてもうれしく、また光栄に感じました。お店に伺ったものの、店自体が臨時休業だったり、お店は開いていたけれどご本人が不在でお会いできないこともありましたが、いずれまた機会をつくって伺いたいと思っています。



モーニングセット (大阪市西成区)



濃厚なブレンドコーヒー (京都市中京区)



サイフォン式コーヒー (左) と経営者の山本昌良さん (右) (大阪市中央区)



ケーキセット (石川県珠洲市)

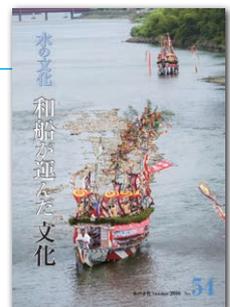


和船が運んだ「4つのストーリー」

2016年10月発行

機関誌「水の文化」54号「和船が運んだ文化」

江戸時代から明治時代初期まで、この国の物流の主役は「和船」でした。和船は物を運ぶために使われていましたが、同時に文化も運んでいたのです。富山藩と薩摩藩の知られざる交易が生んだ「昆布ロード」をはじめ、「陶器」、「民謡」、「古式捕鯨」という4つの文化にまつわるストーリーをまとめています。バックナンバーをご希望の方はHP、または裏表紙の二次元コードからお申し込みください。



特集の関連書籍をプレゼント!

それぞれ1名



- ①『トイレからはじめる防災ハンドブック——自宅でも避難所でも困らないための知識』(加藤寛さんの著書)
- ②『日本人は災害からどう復興したか——江戸時代の災害記録に見る「村の力」』(渡辺尚志さんの著書)
- ③『面識経済——資本主義社会で人生を愉しむためのコミュニティ論』(山崎亮さんの著書)
- ④『地震・台風時に動けるガイド——大事な人を護る災害対策』(辻直美さん監修)

今号の特集「備えは日常のなかにある」の取材にご協力いただいた皆さまの著書のなかから、関連書籍を抽選で4名の読者に差し上げます。右の「79号のアンケート」にWebから回答のうえご応募ください。応募期限は2025年8月31日(日)とさせていただきます。

皆さまからの感想、
情報をお待ちしています!

『水の文化』79号のアンケートにご協力ください。機関誌『水の文化』をより充実したものにするため参考とさせていただきます。

回答はこちらから



<https://forms.office.com/r/r5193U5e00>

送付先の変更やお問い合わせは
HPの「その他のお問い合わせ」
もしくは下記へご連絡ください。

FAX: 03 (6784) 3056

編集後記

災害への備えは「日常」が大切であることを、改めて認識する号となった。自助で備えることは、備蓄など様々あるが、共助で備えるには、日ごろから如何にコミュニティを形成するか、隣に住んでいる人、ご近所付き合いなど、人と人との関わりが、共助に繋がると改めて感じた。昨今、人と人との繋がりが疎遠になりがちであるが、改めて、近くの人に挨拶することからコミュニティを形成したい。(浅)

子が小学校に上がったあたりから知り合いが増えた。同じクラスの保護者、学年は違うが役員活動で仲良くなったお母さんたち。深い付き合いをするわけではないけれど、近所ですれ違えば挨拶や軽い雑談をする仲になった。ママ友コミュニティ、災害は起きない事がいざばんだけれど、きつとこのコミュニティは私たちが家族を守るための大きな力になってくれるだろう。(飯)

「東京にはまた必ず大地震がくる」。子供の頃はそれが本当に怖かったが、当時と比べれば薄れた。大人になったからだとは思いますが、インターネットやSNSの発達で、災害を視覚的に知れるようになったことも影響しているような。デジタルネイティブ世代には、災害はどのように映っているのだろうか。ちゃんと怖がれているのだろうか。(秋)

災害といえば地震や豪雨といった大規模な自然の脅威を想像する。それに対する備えなんて個人では高が知れている。そう思っていた。そんな中、辻直美さんの「日常の小さなトラブルも災害」という言葉は目から鱗だった。例えば電車の遅延に対しては常々実践している。その結果、心に余裕が生まれている実感もある。そんな小さな余裕の積み重ね、なによりもそれが備えの第一歩なのだと思った。(力)

馬縹町の区長を務める吉國國彦さんが「私は大したことはしていません。みんながいてくれたから……」とおっしゃったことが心に染み込んだ。幼い頃から一緒に育ち、何が得意なのか互いにわかっていたから、避難所でも阿吽の呼吸で動けたと思う。私にも例えば『水の文化』の制作に長年携わってくれる頼もしい仲間がたくさんいるのに、ふだんは意識していなかった。「みんながいてくれるから」という気持ちをお忘れずに生きていこう。(前)

ミツカン水の文化センター機関誌
水の文化 第79号

ホームページアドレス

<https://www.mizukn.gr.jp/>

発行

ミツカン水の文化センター
〒475-8585
愛知県半田市市中村町2-6
株式会社 Mizkan Holdings



発行日

2025年(令和7年)7月初版1刷

企画協力 (氏名50音順)

沖 大幹 東京大学大学院工学系研究科教授
陣内秀信 法政大学名誉教授
鳥越皓之 早稲田大学名誉教授

制作

浅野修弘
久保悦史
飯野真奈実

編集製作

前川太一郎 編集
秋山健一郎 編集
中野公力 デザイン・撮影
蔵田 豊 デザイン

執筆

朝倉由貴 (pp.26-28)
上原 純 (pp.22-25)
佐々木 聖 (pp.10-13, pp.18-21)
開 洋美 (pp.14-17)
前川太一郎 (pp.6-9, pp.29-33, pp.36-37)

撮影

大平正美 (pp.10-13, p.27)
川本聖哉 (pp.18-21, p.32)
鈴木拓也 (p.6, pp.22-25)
中野公力 (pp.44-49)
藤牧徹也 (p.23, pp.38-43)
渡邊まり子 (pp.14-17, pp.36-37)

描画

わたなべじゅんじ (p.27, pp.29-31)

書

瑞慶覧鮎里 (p.44)

印刷

中埜総合印刷株式会社